

令和7年度

半田小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 自ら考え・対話する児童の育成
- ① わかる・できる・楽しい授業で基礎基本の定着を図る。
 - ② 対話を通して学びを深める授業を工夫する。
 - ③ 進んで学習に取り組み、自ら考えようとする態度を育てる。

校長

柳生 敦

学力向上推進員

川原 香代

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告、情報交換等、様々な機会を捉え取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○算数の四則計算や漢字の読みは、定着率が高い。 ●漢字を書く力は、定着率が低い傾向がある。 ●計算の意味を考えて立式したり、漢字を文中で正しく使ったりすることに課題がある。 ●自分の考えを書く力や問題を読み取る力に課題があり、意見文を書くことや記述問題が苦手な児童が多い。	①速く正確に計算する力や、適切に漢字を使う力など、基礎基本の力が定着している。 ②正しく文章を読み取るとともに、語彙を増やし、適切な言葉を用いて文章を書くことができる。	①漢字ミニテストやドリル学習で反復学習を行い、復習する機会を増やす。 ②日記指導を行うとともに、授業や宿題で語彙力アップの問題や記述問題に取り組ませる。		①国語は8割程度、算数は7割程度の児童が基礎的な力を身につけることができている。 ②8割程度の児童は、正しく文章を読み取ることができている。 正しく読み取ったり、文章を書くことに苦手意識をもつ児童が2割程度いる。	①引き続き、ミニテストやドリル学習を積み重ねる。 ②教科書以外の課題ではなく、初見の文章を読み問題に取り組んでいく。 音読・黙読する時間をつくり、読みとる力を強化する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の気持ちや考えを伝えようとする児童が多い。 ○プレゼンテーションソフト等を活用して調べたことをまとめ、表現することに意欲的に取り組むことができる。 ●自主的に考え、答えを導き出そうとする力が弱い。 ●話し合いの進め方が分からず、内容が深まりにくい。	①自分の考えや意見を根拠を持って表現することができる。 ②話し合いの仕方を理解し、意見をまとめることができる。	①タブレットやホワイトボードなどをツールとして用い、根拠をもって意見や考えを伝える場面を設定する。 ②話形や話し合いの仕方を提示し、活発に話し合いができるようにする。		①根拠をもって表現できる児童が半数程度。 ②話し合いのスキルは個人差が大きい。 中心となって話し合いを進められる児童が2割程度おり、その児童を中心に話し合いをしている。	①引き続き理由や根拠をもって意見を述べるようにする。 ②テーマを決めてミニ話し合いなどして発達段階に応じたスキルを身につけるようにする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○宿題等与えられたら課題には、真面目に取り組む児童が多い。 ●人の話を興味を持って聞こうとする児童が少ない。 ●将来に対して具体的な目標がなく、競う気持ちや挑戦する意欲が低い傾向にある。	①人の話に興味を持って耳を傾けることができる。 ②自分の将来像を持ち、発達段階に応じて具体的な目標を設定し、そのことに関わる活動をした後は、必ずふり返りを行う。	①授業中だけでなく、朝や帰りの会・学活などで最後まで話す・聞く指導を継続して行う。 ②総合的な学習や生活科の時間に様々な体験をしたり、ゲストティーチャーを招いたりして地元愛を育て、自分の目標や将来について考える機会を設ける。		①9割の児童が興味を持って話を聞いている。 ②どの学年も発達段階に応じた体験学習を行うことで地元への愛着を深めたり自分の将来について考えることができた。 また、常時、目標を確認し、ふり返りをすることができた。	①②ともに継続して指導していく。